



文部科学省 科学技術政策研究所

政策研ニユース

4

National Institute of Science and Technology Policy **NO.246**



NISTEP セミナー

目次

I. レポート紹介	P2
日本の理工系修士学生の進路決定に関する意識調査（調査資料-165）	
第1調査研究グループ 加藤真紀、角田英之	
II. トピックス	P5
文部科学省科学技術政策研究所シンポジウム 開催のご案内	
III. 最近の動き	P7



I. レポート紹介

日本の理工系修士学生の進路決定に関する意識調査（調査資料-165）

第1調査研究グループ 加藤真紀、角田英之

1. 調査の概要

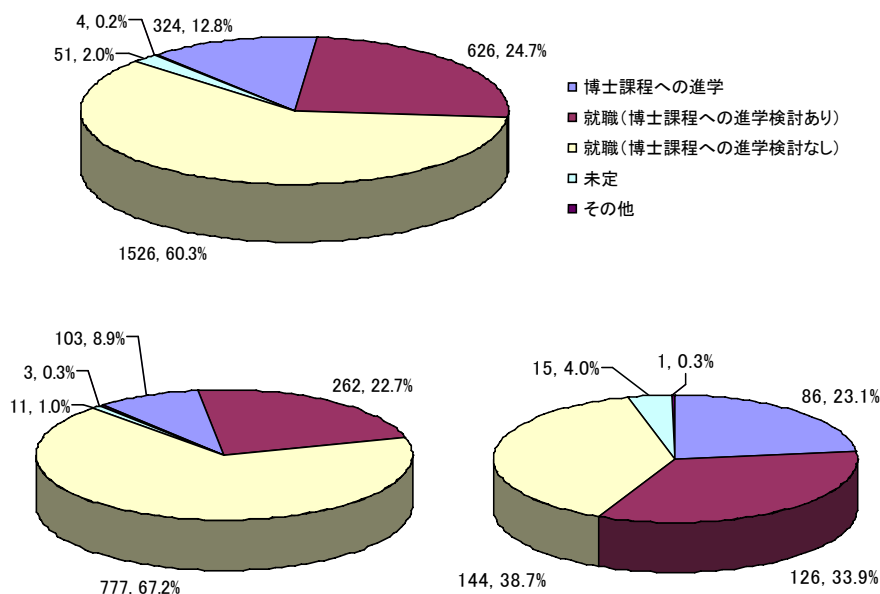
このたび、理工系を専攻する修士学生の進路選択に影響を与える要因の把握を目的として、日本国内の12大学（北海道、東北、筑波、東京、東京工業、早稲田、慶應義塾、京都、名古屋、大阪、広島、九州）で工学・理学・理工学・情報学等を専攻する2年生以上の修士学生を対象としてインターネットによるアンケートを実施した。これら12大学は、理工系分野の科学研究費補助金採択件数等により抽出されている。調査期間は、2008年10月22日から2008年11月16日であり、有効回答数は2,531名となった。本調査結果は、大学や国などの幅広い関係者が大学院学生の要望を勘案しつつ大学院教育を改善するための基礎資料として活用されることが期待されている。

2. 結果

修士学生の進路と博士課程進学を検討

- ・ 回答者2,531名の内、2,152名の学生（85.0%）は就職し、博士課程に進学するのは約324名（12.8%）であった。修士課程修了後に就職する2,152名の内、約3割（29.1%）（ただし全体では24.7%）が博士課程への進学を真剣に検討したことがあると回答している（図表1）。
- ・ 人数の違いに留意する必要があるが（工学系1156名 理学系372名）、理学系では博士課程への進学率が高く（工学系8.9%、理学系23.1%）、就職者の中でも理学系は博士課程進学を真剣に検討したと回答する割合が大きくなっている（工学系25.2%、理学系46.7%）（図表1）。

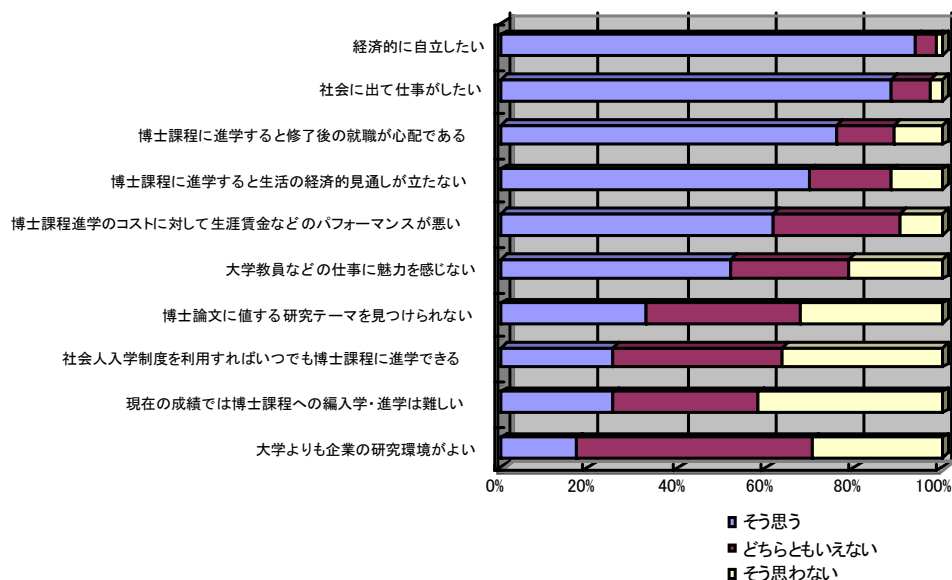
図表1 修士学生の進路（上：全体（2,531名）、下左：工学（1,156名）、下右：理学（372名））



修士課程修了後の進路として就職を選んだ理由

- ・ 就職者 2,152 名が就職を選択した主な理由は、経済的な自立や就職志望等である（経済的に自立したい 93.8%、博士課程に進学すると修了後の就職が心配である 75.5%、博士課程に進学すると生活の経済的見通しが立たない 69.5%、など）（図表 2）。

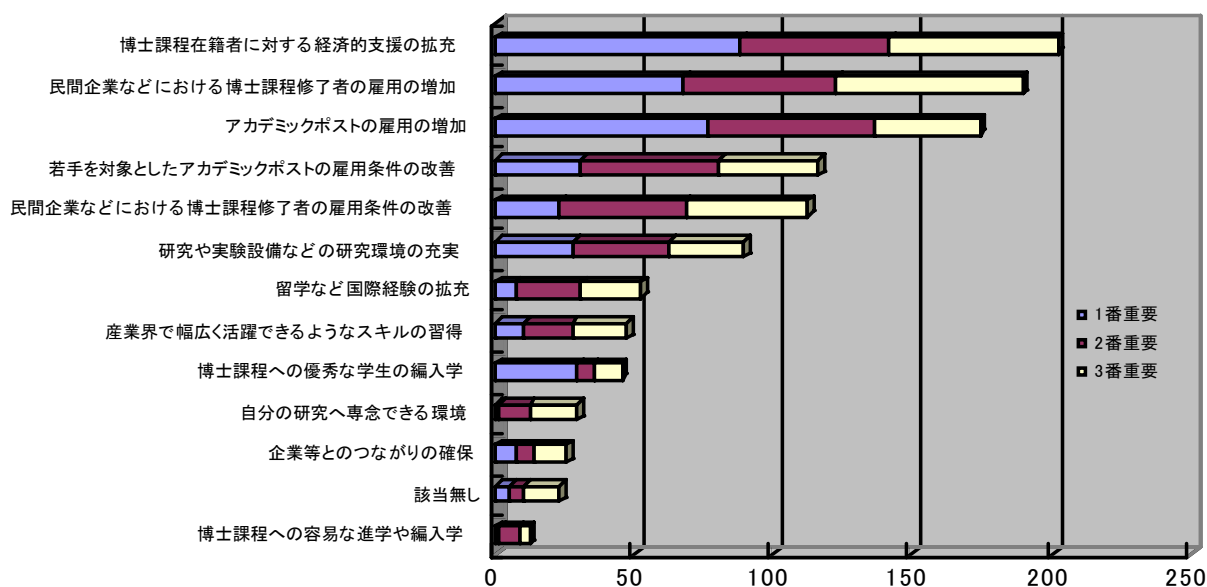
図表 2 修士課程修了後の進路として就職を選んだ理由



博士課程進学を真剣に検討したことのある就職者が進学を考える際に重要な条件

- ・ 博士課程進学を真剣に検討したと回答した就職者 626 名に、博士課程への進学を考えるための重要な条件を選択するように尋ねたところ、経済的支援の拡充が最も多く選ばれている(25.9%)。続いて、民間企業による博士課程修了者の雇用増加などの雇用に関する条件が多く選択されている(18.8%)（図表 3）。

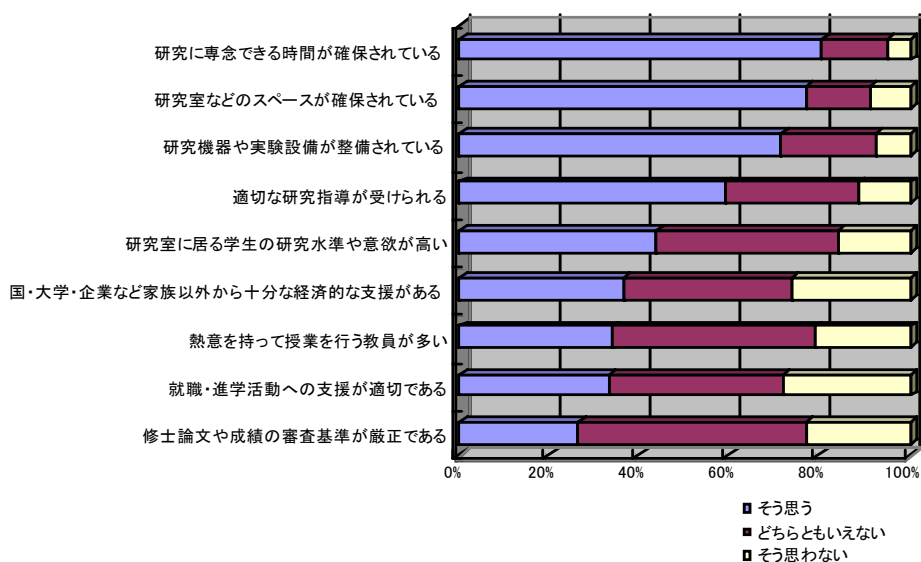
図表 3 博士課程進学を真剣に検討したと回答する就職者が博士課程進学を検討する際に重要と考える条件



修士課程の教育・研究環境の評価

- 研究時間（80.2%）や研究室のスペース（76.9%）の確保、実験設備の整備（71.4%）は高く評価されている。他方、修士論文や成績の審査基準の厳正さ（26.3%）、就職・進学への支援の適切さ（33.3%）、熱意を持って授業を行う教員の多さ（34.0%）は、相対的に低く評価されている（図表 4）。

図表 4 修士課程の教育・研究環境の評価



大学院修士課程の教育・研究環境についての要望や、進路選択を検討する過程で思うこと

- この調査では、進路選択を検討する過程で思うことなどを自由に記述するように回答者に依頼している。博士課程進学をためらう理由として、まず博士課程在籍中の処遇への不満や、修了後の就職に関する不安が述べられている。次に、現在の博士課程進学は容易であると認識されているため、進学がステータスとなって欲しいとの希望が述べられている。さらに今後は、博士課程進学が多様なキャリアへの対応も含めて、投資に見合う付加価値を付与することへの期待が示されている。
- 進路を検討するための適切な情報が不足しているとの認識から、関連情報を適切に得たいとの要望が述べられている。これら情報には、修士課程進学時には進学先となる研究室の情報や、博士課程進学を検討する際には博士課程修了後の進路や就職先などに関する情報等が含まれている。



Ⅱ. トピックス

文部科学省科学技術政策研究所シンポジウム 開催のご案内

近未来への招待状 ～ナイス ステップな研究者 2008 からのメッセージ～

1. 開催趣旨

科学技術政策研究所は、昨年 12 月に、科学技術に顕著な貢献を果たされた方々を「ナイス ステップな研究者」に選定しました。このたび、「ナイス ステップな研究者」の方々の国内外における先端的な研究活動ならびに特色ある取り組みについてご紹介いたします。一般の方々、科学技術行政およびサイエンスコミュニケーション等に関心をお持ちの多方面の方々のご参加をお待ちしております。

2. 主 催 文部科学省 科学技術政策研究所

3. 開 催 日 2009 年 5 月 26 日（火）13:30～16:50

4. 会 場 文部科学省第 2 講堂 （東京都千代田区霞ヶ関 3-2-2 中央合同庁舎第 7 号館 旧庁舎 6 階）

5. 交 通 東京メトロ銀座線「虎ノ門」駅（6、11 番出口）より徒歩 2 分、 東京メトロ千代田線、日比谷線、丸の内線「霞ヶ関」駅（A13 番出口）より徒歩 5 分 東京メトロ有楽町線「桜田門」駅（4 番）より徒歩 15 分 都営地下鉄三田線「内幸町」駅（A4 番）より徒歩 10 分

6. お問い合わせ・参加お申し込み先：

文部科学省 科学技術政策研究所 企画課

東京都千代田区霞ヶ関 3-2-2 中央合同庁舎第 7 号館 東館 16 階

E-mail : nisestep2008@nistep.go.jp

TEL : 03-3581-2466

FAX : 03-3503-3996

7. プログラム

- 13:30 開会挨拶 和田 智明（科学技術政策研究所長）
来賓挨拶 文部科学副大臣または文部科学大臣政務官または文部科学審議官（予定）
- 13:40 ■第一部
- 新津 洋司郎（札幌医科大学分子標的探索講座特任教授）
「臨床家の取り組む“橋渡し研究”～肝硬変の治療法開発を例示して～」
- 三浦 道子（広島大学大学院先端物質科学研究科教授）
「トランジスタモデルの開発と国際標準化の実現」
- 山口 茂弘（名古屋大学大学院理学研究科教授）
「分子が拓く未来エレクトロニクス」
- 若山 照彦（理化学研究所ゲノム・リプログラミング研究チームリーダー）
「クローン技術の価値と問題点」
- 池田 裕二郎（日本原子力研究開発機構 J-PARC センター物質・生命科学ディビジョン長）
「J-PARC パルス中性子源の開発」
- 15:15 ■第二部
- 米田 仁紀（電気通信大学レーザー新世代研究センター教授）
「危機・限界体験による実践的テクノロジスト育成
～【実演】危機・限界体験デモンストレーション～」
- 嶋田 雅暁（長崎大学熱帯医学研究所教授）
「熱帯医学における海外研究教育拠点の意義と将来」
- 河野（平田）典子（日本大学理工学部数学科教授）
「日本の女性研究者の現状と課題」
- 新井 紀子（国立情報学研究所情報社会相関研究系教授）
「ハッピーになれる数学の使い方」
- 細野 秀雄（東京工業大学フロンティア研究センター教授）
「ワクワクする材料研究～鉄系超電導とセメント超電導～」
- 16:45 閉会挨拶 桑原 輝隆（科学技術政策研究所総務研究官）
- 総合司会：奥和田 久美（科学技術政策研究所科学技術動向研究センター長）



Ⅱ. 最近の動き

○ 講演会・セミナー

- ・ 3/12 「民間企業の宇宙事業の現状と今後の取組み」
稲畑 廣行：三菱電機株式会社 宇宙システム事業部長
- ・ 3/13 「ブダペスト宣言から 10 年」(NISTEP-JST/RISTEX 共催)
吉川 弘之：独立行政法人産業技術総合研究所 理事長
- ・ 3/18 「第 3 期科学技術基本計画のフォローアップに係る調査研究
基本計画の達成状況評価のためのデータ収集調査」
中務 貴之：第 1 調査研究グループ 上席研究官
栗山 喬行：第 2 調査研究グループ 上席研究官
- ・ 3/19 「知識デザイン企業とデザインマネジメント」
紺野 登：多摩大学大学院経営情報学科教授兼知識リーダーシップ総合研究所
(IKLS) 所長
- ・ 3/23 「第 3 期科学技術基本計画のフォローアップに係る調査研究
内外研究者へのインタビュー調査」
浦島 邦子：科学技術動向研究センター 上席研究官
野村 稔：科学技術動向研究センター 客員研究官
- ・ 3/26 「海外高度人材から見た「日本の魅力」とは何か」
Monte CASSIM：立命館副総長 兼 立命館アジア太平洋大学学長

○ 新着研究報告・資料

- ・ 「科学技術動向 2009 年 3 月号」(3 月 27 日発行)
レポート 1 iPS 細胞に関する研究動向と課題
客員研究官 鷺見 芳彦
レポート 2 子どもの健康と環境に関する世界の研究動向
客員研究官 新田 裕史



編集・発行

文部科学省科学技術政策研究所広報委員会 (政策研ニュース担当：企画課)

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-2-2 中央合同庁舎第 7 号館東館 16 階

電話：03 (3581) 2466 FAX：03 (3503) 3996

ホームページ URL：http://www.nistep.go.jp E-mail：news@nistep.go.jp

2009 年 4 月号 No. 246 (平成 21 年 4 月 1 日発行)